

河川における外来植物対策の手引き

本書は、全国の河川において特に問題の大きな外来植物10種を取り上げ、行政・市民・研究者などが各河川の現場で対策を行う際の、実践的な“手引き”としてとりまとめたものであり、今後の外来種対策の推進とともに改められていくべきものである。河川の現場において効果的な対策を実践しようとする人びとの一助になることを目的にして刊行するものである。

本書の概要

I 外来植物対策の考え方

- ①外来植物対策の基本的な考え方
- ②順応的管理による外来植物対策の考え方
- ③対策を優先すべき主な外来植物10種
- ④特定外来生物とは

II 順応的管理による外来植物対策

- ①現状の把握(日常的な監視)
- ②対策対象の決定
- ③計画の作成
- ④対策の実施
- ⑤モニタリング
- ⑥検証・評価
- ⑦情報の公開と共有
- ⑧市民の理解
- ⑨市民との協働

III 対策を優先すべき主な外来植物10種の生態的特徴と対策手法

- ハリエンジュ(別名ニセアカシア)
- アレチウリ
- オオカワヂシャ
- オオキンケイギク
- オオハンゴンソウ
- ナルトサワギク
- セイタカアワダチソウ
- シナダレスズメガヤ
- ホテイアオイ
- ボタンウキクサ

IV 外来植物対策と地域連携

- ①体制づくり
 - (1) 多様な利害関係者の参画
 - (2) 地域の力を外来種対策に活かす
 - (3) 市民参加に際する留意点
- ②情報の共有
 - (1) 参加者の理解と賛同の取得
 - (2) 情報を共有する仕組みづくり
 - (3) 情報の公開などに係る配慮事項
- ③持続可能な取り組みに向けて
 - (1) 目標やモニタリング結果の定期的な公示
 - (2) 楽しみや知的好奇心の満足、メリットなど
 - (3) 連携の成熟度に応じた組織体制づくり

市民などと連携した外来植物対策事例

事例-1

鬼怒川におけるシナダレスズメガヤ対策

事例-2 天竜川流域におけるアレチウリ対策

事例-3 天竜川流域におけるハリエンジュ対策

事例-4 緑川流域におけるボタンウキクサ対策

資料編

用語解説